



四国遍路道フォーラム 2018
 ～次世代につなごう!未来の四国へんろ道～

遍路道の保全活動を行う「加茂谷へんろ道の会」の会員

一枚のポスターに目を奪われた。遍路道をふさぐ巨大な倒木を取り除こうと人々が奮闘している写真に、「わいらが守る、へんろ道。」と記されている。「四国遍路道フォーラム2018」次世代につなごう!未来の四国へんろ道」の開催を告げるポスターだ。

フォーラムを主催する「加茂谷へんろ道の会」は、加茂谷地域の住民など約40人で組織され、平成25年から太龍寺周辺遍路道の保全活動を行っている。だが、会員の平均年齢は70歳を越え、肉体的にきつい保全作業を今後維持していくことができるのか危機感を募らせている。同会会長の横井知昭さん(73歳・水井町)は、「遍路道に関心を持ってもらい、気軽に活動に参加してほしい」と話す。そのきっかけになればと、遍路道の保全に焦点を当てたフォーラムを初めて開催した。

12月2日、文化会館で開催されたフォーラムでは、横井さんが遍路道の保全活動を報告した。毎年春と秋に、遍路道の清掃活動を行うほか、台風など荒天後の補修整備を行う。特に平成26年台風11号の被害では、倒木や斜面の崩れ、落石な



遍路道を清掃する



遍路道の魅力を伝える



熊野古道の保全活動を伝える小野田さん



ディスカッションのようす

どの対応に追われた。「これまで周辺住民で維持してきたが、年々活動がきびしくなっている。新しい若い力が必要だ」と呼び掛けた。

また、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の保全活動に取り組む和歌山県世界遺産マスターの小野田真弓さんが熊野古道の世界遺産登録後の整備維持活動を紹介。小野田さんは、「古道に関する催しを工夫して、人々を呼び込み、活動を継続している」と伝えた。遍路文化を研究している徳島大学准教授のモートン常慈さんと四国霊場第22番札所平等寺副住職の谷口真梁さんによるディスカッションでは、モートンさんが「遍路道を訪れた外国人は、道がきれいに保たれていることをその土地の魅力だと感じて」と紹介した。観光業やボランティア団体などさまざまな分野から集った約130人の参加者は、遍路道の保全を「自分ごと」と捉え、活発な意見交換を行った。「道」は、自然にそこにあるものではなく、人が作り、守り、育てていくもの。約1200年にわたり先人が受け継いできた地域の宝・遍路道を次世代につなぐ歩みを止めてはならない。